「家庭の日」作文コンクール入賞者

毎月第３日曜日を「家庭の日」と定め、その啓発事業として「家庭の日」作文コンクールを実施したところ、684人から応募があり、次の皆さんが入賞しました（敬称略）。

問　生涯学習課（☎62-1036）

【最優秀】（6人）

「お母さんとお出かけ」伊藤明希（富士松北小４年）
「あーちゃんに銀メダル」岡部優彩（富士松南小５年）
「雨の日のボーリング」本多恵怜（住吉小６年）
「僕の家のルール」名倉奏（富士松中１年）
「父の料理」長谷川二彩（刈谷東中２年）
「痛みと引き換えたもの」浦野仁成（雁が音中３年）

【優秀】（6人）

「わたしの家族」羽下依杏（かりがね小４年）
「お弁当マジック」髙橋梨衣奈（東刈谷小５年）
「わが家に来た宝物」寺田有花（朝日小６年）
「僕の床屋さん」宮崎景司（朝日中１年）
「家族での時間」古川玲実（刈谷南中２年）
「我が家の朝」内村彩花（依佐美中３年）

【入選】（51人）

平賀遼一・金城悠・田中宥那（亀城小）、角谷虹奈・池田結奏・橘咲希（小高原小）、浅野世穏・南幸羽・佐藤彩葉（日高小）、峯松侑輝・山下芽衣南・佐々木愛莉（衣浦小）、豊田彩乃・坂井ここ（住吉小）、岡田穂菜美・小暮桜花（かりがね小）、蔵本健・吉田結菜・山本風河（平成小）、鬼頭咲結・神谷優月（富士松南小）、神谷沙愛子・正木那緒（富士松北小）、松村琉花・塚本健・水野亜胡（富士松東小）、尾本侑仁・毛受煌貴・佐藤梨心（小垣江小）、細田優月・荻原蒼空・清水悠翔（小垣江東小）、田中愛羽・石川晄士朗・江坂茉奈（双葉小）、土居愛咲・山根二郎（東刈谷小）、能美匠冴・川崎奈々加（朝日小）、森島楓貴・石田ひなは（刈谷南中）竹中重雄・竹川有紀（刈谷東中）、川瀬彩世・中村里緒（富士松中）、堀田真衣・竹田百慧（雁が音中）、有馬みずほ・神谷彩美（依佐美中）、角岡碧・渡辺茜子（朝日中）

「痛みと引き換えたもの」　雁が音中学校3年　浦野仁成

僕は、親と話すことをあまりしてきませんでした。友達とは気楽に明るく、どうでもいい話題でも盛り上げて話すことができました。しかし、いつまで経っても、自分から学校で起きた出来事や、楽しかったこと、感じたことなどの話題を自分からもち出して話すことができませんでした。だから、家族みんなで食卓を囲い、ご飯を食べて団らんしているときでさえも、自分は黙々と食事を進めていました。僕の兄はとても話し上手で、食事のときは静かに食べることができないのかと思うほど延々と話し続けています。そして低学年の弟も、自分の話を聞いてほしいばかりに、話に割りこんでいってまで話し続けます。だから、そこに自分も割りこんで話したいことを話すことができなくて、親とも話せなくなってしまったのかとも思いました。いつまでもこのままではいけないと思ったので、中学校に入ってからはできるだけ話そうと思いました。これまで話してこなかったため、自分はあまり愛されてないのかと思ったこともあります。自分は素直になれず、感謝を伝えることもあまりできませんでした。愛されていることに気づかず、感謝も伝えられないまま三年の夏まで生きてきました。しかしそんな中で、愛されていると気づくことができる出来事がありました。

三年の七月二十四日、僕は部活の西三大会ですねの骨を二本、骨折しました。そのため、二週間の入院が必要になりました。骨が折れると数日は痛みはひかないし、手術もすると傷口も痛くなるため一人では何もできませんでした。そのため、母が病院に泊まってくれると言ってくれました。本当はコロナの感染予防の影響で泊まることも難しかったはずなのに、母は諦めずにお願いしてくれました。自分はこの出来事で、ちゃんと心配してくれて愛されていることに気づくことができました。また、痛みで苦しんでいるときもすぐ反応してくれました。入院しているときは、病室に母しかいないので二人で会話することが多くなりました。面白い話題を持ち出したときには、一緒に笑ってくれたり、このケガで最後の大会に出られないと嘆く僕の言葉も優しく聞いてくれたりしました。ケガのおかげで、母が自分にどれだけ尽くしてくれて、愛してくれていたのかに気づくことができました。母には、このケガの間に世話をしてくれたこともふくめ、日頃の感謝を伝えることができました。

僕は遅くなってしまったけど、この出来事から親との会話と感謝を伝えることは大事だと気づきました。今の生活があたりまえじゃないと気づき、日頃から会話し、感謝してそれを伝えていくべきだと思いました。